

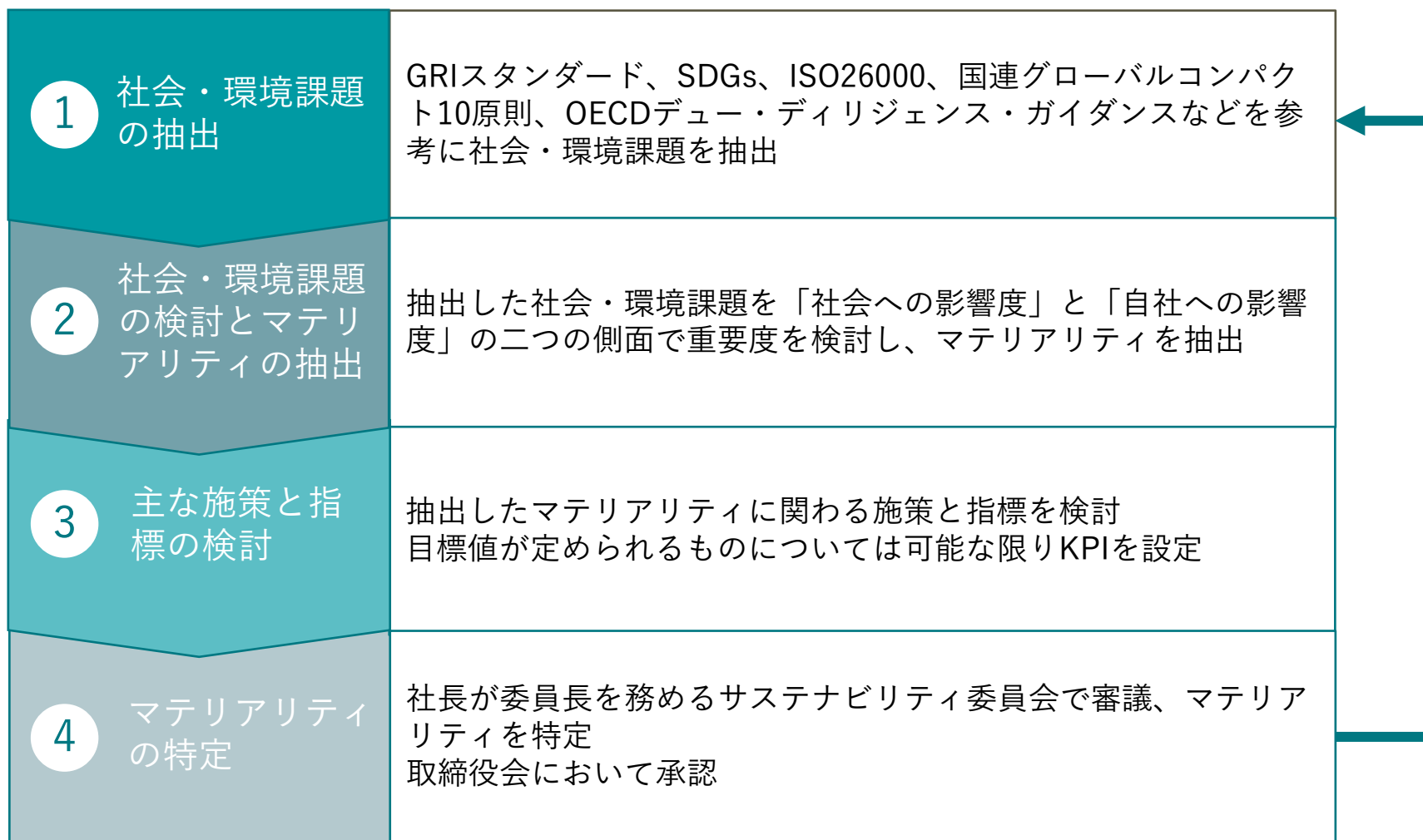
マテリアリティの特定

2025年6月13日更新

マテリアリティの特定

マテリアリティの特定プロセス

マテリアリティの特定は、社内でワーキンググループを組織し、以下のプロセスで行いました。



定期的な見直し

マテリアリティの特定

STEP1 社会・環境課題の抽出

GRIスタンダード、SDGs、ISO26000、国連グローバルコンパクト10原則、OECDデュー・ディリジェンス・ガイダンスなどの国際基準を参考に、今後、事業活動を通じて解決していきたい社会・環境課題を抽出しました。

抽出した社会・環境課題についてSDGsとの関連付けを行い、5つのカテゴリーに分類して整理しました。

| | カテゴリー | 社会・環境課題 | SDGsとの関わり | | カテゴリー | 社会・環境課題 | SDGsとの関わり |
|-----|-------------|------------------------|-----------|---|-----------|-------------------------|-----------|
| E | 地球環境の保全 | 1.気候変動・脱炭素 | | G | 経営基盤の構築 | 15.法規制・コンプライアンス | |
| | | 2.循環型経済・廃棄物 | | | | 16.コーポレートガバナンス | |
| | | 3.生物多様性・森林保全 | | | | 17.BCP・危機管理 | |
| | | 4.水資源・海洋保全 | | | | 18.情報セキュリティ | |
| | | 5.化学物質管理 | | | | 19.人権デューデリジェンス | |
| S | 誠実なモノづくり | 6.職場の安全・防災 | | S | 人材育成と働きがい | 20.ダイバーシティ | |
| | | 7.サプライチェーンの強化 | | | | 21.インクルージョン | |
| | | 8.品質・消費者の安全 | | | | 22.人材育成・人的資本・well-being | |
| | | 9.地域創生・パートナーシップ | | | | 23.健康経営 | |
| | | 10.グリーンプロダクト | | | | | |
| | | 11.街づくり・インフラ | | | | | |
| E,S | 新たな技術・価値の創造 | 12.イノベーション・新規ビジネスモデル創出 | | | | | |
| | | 13.生活価値創造 | | | | | |
| | | 14.DX・生産性向上 | | | | | |

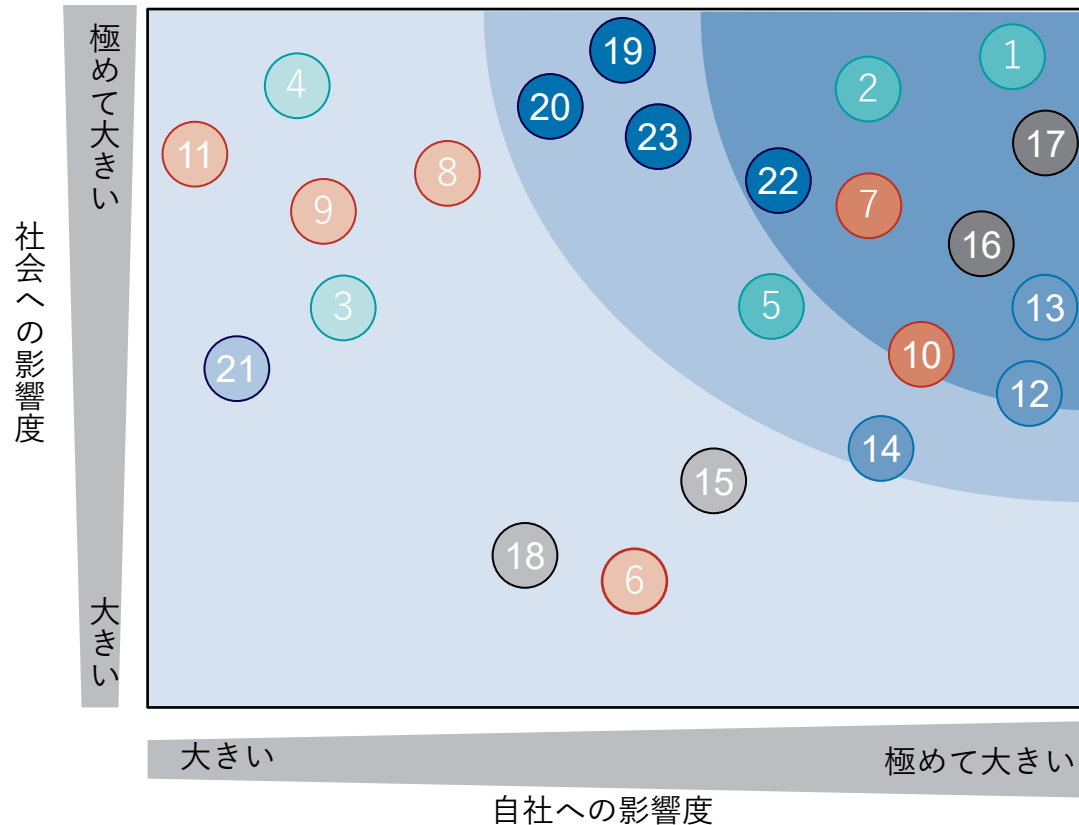
マテリアリティの特定

STEP2 社会・環境課題の検討とマテリアリティの抽出

抽出した社会・環境課題を、「社会への影響度」と「自社への影響度」の2つの側面から評価し、重要度の高い14のマテリアリティを抽出しました。

社会への影響度
 調査会社や投資家との対話を通じて、社会がセーレンに寄せる期待や要請を把握することにより、社会・環境課題が社会に及ぼす影響度を評価しました。

自社への影響度
 社会・環境課題と中長期経営計画との整合性、リスク・機会要因の分析結果などを考慮して、社会・環境課題がセーレンに及ぼす影響度を評価しました。



| | カテゴリー | 社会・環境課題 |
|-----|-------------|-------------------------|
| E | 地球環境の保全 | 1.気候変動・脱炭素 |
| | | 2.循環型経済・廃棄物 |
| | | 3.生物多様性・森林保全 |
| | | 4.水資源・海洋保全 |
| | | 5.化学物質管理 |
| S | 誠実なモノづくり | 6.職場の安全・防災 |
| | | 7.サプライチェーンの強化 |
| | | 8.品質・消費者の安全 |
| | | 9.地域創生・パートナーシップ |
| | | 10.グリーンプロダクト |
| | | 11.街づくり・インフラ |
| E,S | 新たな技術・価値の創造 | 12.イノベーション・新規ビジネスモデル創出 |
| | | 13.生活価値創造 |
| | | 14.DX・生産性向上 |
| G | 経営基盤の構築 | 15.法規制・コンプライアンス |
| | | 16.コーポレートガバナンス |
| | | 17.BCP・危機管理 |
| | | 18.情報セキュリティ |
| S | 人材育成と働きがい | 19.人権デューデリジェンス |
| | | 20.ダイバーシティ |
| | | 21.インクルージョン |
| | | 22.人材育成・人的資本・well-being |
| | | 23.健康経営 |

マテリアリティの特定

STEP3 主な施策と指標の検討

マテリアリティにどのように取り組んでいくのか、マテリアリティに関わる主な施策と指標を検討しました。

| | カテゴリー | マテリアリティ | 取組内容 | 指標 | 目標値 |
|-------------|----------|--|--|---------------------------------------|---|
| 社会への貢献 | 地球環境の保全 | 1.気候変動・脱炭素 | 再生可能エネルギーの導入を拡大する。 徹底したロス・ムダの削減による省エネ活動に取り組む。 | CO2排出量 | 2030年 ▲46% (2013年比) 2050年 カーボンニュートラル |
| | | 2.循環型経済・廃棄物 | 排出された廃棄物を可能な限り大切な資源として再生・再利用する。 商品設計を見直すことにより、よりリサイクルに適した製品を販売する。 | 廃棄物排出量 | 2030年 ▲50% (2018年比) |
| | | 3.化学物質管理 | グリーン調達ガイドラインを制定し、使用する薬剤を制限する。 薬剤の代替や処理装置の導入により、環境へ排出する有害物質を可能な限り削減する。 | PRTR排出量 | 2030年 ▲85% (2018年比) |
| | VOC排出量 | | | 2030年 ▲95% (2018年比) | |
| | 誠実なモノづくり | 4.サプライチェーンの強化 | QCDだけに留まらず、取引先のサステナビリティに関する活動状況を把握し、改善を要請する。 | サステナビリティ調達先ガイドラインの作成 サプライチェーンの連携強化 | 2024年 作成完了 |
| 5.グリーンプロダクト | | SDGsの目標達成を念頭に置き、健康増進や各種環境課題解決を実現していくための新商品を開発する。 | グリーンプロダクト製品の売上構成比 | 2030年 50% | |

マテリアリティの特定

| | カテゴリー | マテリアリティ | 取組内容 | 指標 | 目標値 |
|-------|-----------------|---------------------------|--|---------------------|--------------------------------|
| 経営の基盤 | 新たな技術 ・価値の創造 | 6.イノベーション ・新規ビジネスモデル創出 | 在庫レスを実現するための究極のビジネスモデルであるビスコテックス事業を中心に新たな事業モデルを創出する。 | ビスコテックス売上高 | 2030年 150億円 (2020年比200%) |
| | | 7.生活価値創造 | 宇宙ビジネスや炭素繊維プリプレグ事業の拡大を図る。 | 売上高 | 2028年 42億円 |
| | | 8.D X・生産性向上 | データやデジタル技術を活用し、あらゆる業務内容を変革する。 | 検査工程無人化 | 2025年 国内導入完了 |
| | 経営基盤の構築 | 9.コーポレートガバナンス | 現在の社会情勢を踏まえ、透明性・効率性が高く、ステークホルダーに信頼されるガバナンス体制を構築する。 | 取締役会の実効性評価 | 継続実施 |
| | | | | 女性役員比率 | 2030年 30% |
| | | 10. BCP・危機管理 | 自然災害や感染症等に関するビジネス継続リスクの評価と、BCPへの反映等を通じた、ビジネス・レジリエンスの強化を図る。 | 単体主事業における BCPの策定 | 2024年 策定完了 |
| | | | 海外子会社への展開 | 2025年 海外展開完了 | |

マテリアリティの特定

| | カテゴリー | マテリアリティ | 取組内容 | 指標 | 目標値 |
|-------|-----------|-----------------------------|--|----------------------|---------------------|
| 経営の基盤 | 人材育成と働きがい | 11.人権デュー・ディリジェンス | 繊維産業における責任ある企業行動実施宣言に基づき、当社の強み、弱みを理解し、課題を解決する。 | 繊維産業における責任ある企業行動実施宣言 | 遵守徹底 |
| | | 12.ダイバーシティ | 女性の採用を拡大する。 女性のマネジメント研修やキャリアアップ研修を充実させる。 | 女性管理職比率 | 2030年 2022年比200% |
| | | 13.人材育成・人的資本 ・Well-being | 働き方改革による仕事の効率化や所得向上作戦を実施する。 社員満足度調査の結果を踏まえた対策を実施する。 | 社員満足度 ポジティブ回答率 | 2025年 70% |
| | | 14.健康経営 | 社内研修における健康教育の強化や残業ゼロの取り組みを行う。 社内のコミュニケーションの充実を図る。 | 残業時間 | 2030年 残業時間ゼロ |
| | | | | 健康経営優良法人 | 継続認証 |

STEP4 マテリアリティの特定

社長が委員長を務めるサステナビリティ委員会で審議し、マテリアリティを特定、その後、取締役会で承認されました。

セーレンは、国際社会の一員として、事業活動を通じてサステナビリティを巡る課題に取り組むことの重要性を認識しています。マテリアリティを経営戦略の策定における重要な要素と位置付け、事業活動を通じて課題解決に挑むことで、変革の手を緩めることなく、「持続可能な社会」と「持続的成長」の実現を目指し邁進してまいります。

マテリアリティの進捗状況

| | カテゴリー | マテリアリティ | SDGsアイコン | 指標 | 実績 | 目標値 |
|-------------|-----------------------|--------------------------|---------------------------------------|---|--|---|
| 社会への貢献 | 地球環境の保全 | 1.気候変動・脱炭素 | | CO2排出量 | 2023年 ▲38% 2024年 ▲38% | 2030年 CO2排出量：▲46%（2013年比） 2050年 カーボンニュートラル |
| | | 2.循環型経済・廃棄物 | | 廃棄物排出量 | 2023年 ▲21% 2024年 ▲39% | 2030年 廃棄物量：▲50%（2018年比） |
| | | 3.化学物質管理 | | PRTR排出量 VOC排出量 | 2024年 ▲75% 2024年 ▲94% | 2030年 PRTR排出量：▲85%（2018年比） 2030年 VOC排出量：▲95%（2018年比） |
| 誠実なモノづくり | 4.サプライチェーンの強化 | | サステナビリティ調達先ガイドラインの作成 サプライチェーンの連携強化 | 2023年 セーレン調達ガイドラインの作成 2024年 調達ガイドラインに基づく、サプライヤー勉強会の開催 | サステナビリティアンケート調査の実施と改善要請 | |
| | 5.グリーンプロダクト | | 売上高 | 2024年 セーレングループの重点成長分野を具体化し、環境配慮技術を開発 CO2排出量削減、リサイクル可能等の環境対応価値提案製品を拡大 | 2030年 50% | |
| 新たな技術・価値の創造 | 6.イノベーション・新規ビジネスモデル創出 | | ビスコテックス売上高 | 2024年 67億円（前年比：+16%） | 2030年 150億円（2020年比200%） | |
| | 7.生活価値創造 | | 売上高 | 2024年 2億円（前年比：▲53%） | 2028年 42億円 | |
| | 8.D X・生産性向上 | | 検査工程無人化 | 国内：自動検査装置先行導入完了 | 2025年 国内自動検査無人化 | |
| 経営基盤の構築 | 9.コーポレートガバナンス | | 取締役会の実行評価 女性役員比率 | 継続実施中 2023年 取締役 9% 2024年 取締役 11% 専任役員女性3名任命 | 継続実施 2030年 30% | |
| | 10. BCP・危機管理 | | 単体主事業におけるBCPの策定 海外子会社への展開 | 2023年 災害発生時の初動対応の発動基準の設定完了 2024年 災害発生時の社員の安否確認訓練実施→安否確認方法の見直し | 2024年 策定完了 2025年 展開完了 | |
| 経営の基盤 | 人材育成と働きがい | 11. 人権デュー・ディリジェンス | | 繊維産業における責任ある企業行動実施宣言 | 2024年 遵守状況確認実施 | 遵守徹底 |
| | | 19. ダイバーシティ | | 女性管理職比率 | 2022年 8名 2023年 6名 2024年 名（専任役員投与 3名） | 2030年 200%（2022年比） |
| | | 21. 人材育成・人的資本・Well-being | | 社員満足度ポジティブ回答率 | 2023年 66% 2024年 73% | 2025年 70% |
| | | 22. 健康経営 | | 残業時間 健康経営優良法人 | 2023年 1.7時間 2024年 2.7時間 2024年 未取得 | 残業ゼロ 健康経営優良法人認証の所得と継続 |